

2021年10月25日

### 内モンゴル自治区の化学工場で爆発事故が発生

10月22日23時ごろ、内モンゴル自治区アルシャー盟（盟は内モンゴル自治区における行政区画の呼称であり、中国の省と同格になります）のハイテク産業開発区において、化学工場の爆発事故が発生しました。事故発生後、アルシャー盟の消防、公安、緊急対応部門が現場に駆けつけ、消火と救助に当たった結果、火災は23日午後0時50分までに鎮火したとのことです。現場のオペレーターは全員避難し、企業は生産を停止しています。この爆発事故で4人が死亡し、1人が重傷、2人が軽傷を負いました。

救助活動は継続されており、爆発の原因は調査中です。公安当局は、工場責任者の身柄を拘束しています。



爆発が発生したのは、バインオボー工業団地（巴音敖包工業園区）内で操業していた内モンゴル中高化工有限公司（内蒙古中高化工有限公司）の工場敷地内にある酸化反応を行う建屋とのことです。

同社は、浙江中山化学グループが100%出資した子会社であり、2019年5月に設立し、農薬（トリアジン系除草剤）や化学工業品およびその原料を製造販売しています。安全面についての審査を受け、5月に「危険化学品安全生産標準化企業」に認定されていました。

弊社は、この内モンゴル中高化工有限公司と取引がないため、事故の影響はありません。一方で、今回の爆発事故によって、内モンゴルの周辺的安全環境保護の監査がさらに強化されること、また、除草剤工場が爆発したことから、中国の農薬市場にある程度の影響を及ぼすこと、が推測されます。

引き続き情報を収集し、新しい情報を入手しましたら、ご報告させていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上